

～多文化共生社会をめざして～

外 国 籍 府 民 の 現 状

～京都府における在留外国人数は、京都府人口の約2%、
全国平均の1.61%(2013年)より高い比率～

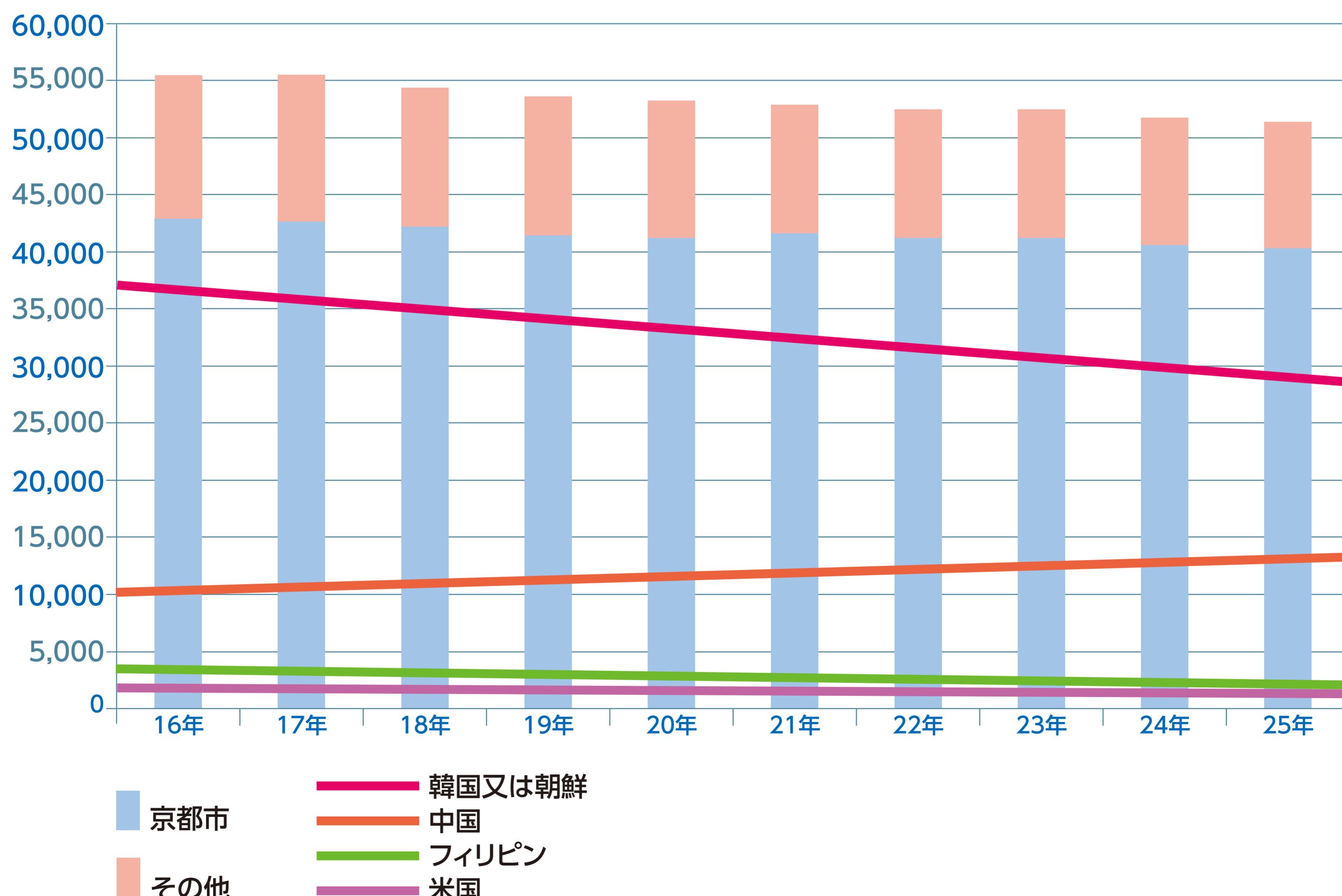
京都府には、およそ5万1千人の外国籍府民の方がおられ、およそ8割の方が京都市内にお住まいになっております。(京都府国際課調べ)

国籍別で見ますと、韓国又は朝鮮の方がおよそ2万9千人と約6割(56.1%)を占め、次いで、中国の方が1万3千人(25.1%)、フィリピン(3.6%)及び米国(2.3%)の方々と続きます。

これらの外国籍府民の中には、日本語が堪能ではないけれど、京都で働き、日々の生活を送っている方々がおられます。しかし、日本語習得の機会が少なく、日常生活のあらゆる場面で言葉の壁に直面してしまったり、日本語がわからないので日本の学校に通うことをあきらめてしまう外国人の子どもたちもいます。

今後ますます地域の国際化が進む中で、言語、宗教、生活習慣等が異なる文化や考え方を理解し、互いの人権を尊重し合う「多文化共生社会」の形成を進める必要があります。

外国人登録国籍別 上位4カ国



地域社会で外国籍の人々と共に生きる

～日本のさまざまな地域社会で外国籍の人々は
どんな思いで毎日を過ごしているのでしょうか?～

●外国籍府民には次のような方がおられます●

ここ20~30年、又はごく最近外国から来た人々。

この人たちの場合、日本語での会話や文章の読み取りがよくできない人が少なくありません。でも、日常生活のことですから、身振り、手振りでも意思を通することは不可能ではありません。地域の人々と外国籍の人々双方の努力で地域での共通のルールを理解してもらうよう、その地域での慣習や行事を説明してみてください。

母国と日本との慣習の違いをよく説明する一方、これまで地域で培われてきた考え方や習慣と異なるものがあることを理解することで誤解も解け、双方がより暮らしやすくなると思います。



戦前に日本へ渡航してきた朝鮮半島からの人々。

この人はたちは、世代を重ね、今は2世~4世の方々が圧倒的に多いのですが、戦前・戦後の日本社会の蔑視感情が残っている場合もあって、民間賃貸住宅への入居を断られたり、日本人の保証人を求められたりすることが今でも起きています。また本名で暮らすことをためらっている人々も少なくありません。



今日、さまざまな方々が一緒に地域に暮らすようになっていることを認識し、互いに異文化に対する理解を深めるとともに、地域での「付き合い」や「つながり」を醸成することが重要です。

そのためには、外国籍府民との交流の機会を増やし、インターネット上の誹謗中傷や外国人を排斥する趣旨の言動が公然とされる現状を踏まえ、民族や国籍による差別をなくしていくまちづくりを進めていくことが重要です。

異文化を持った人々、さまざまな家族の歴史を背負った人々と共に暮らし、お互いに理解を深め、学びあうことができる地域を築いていきましょう。

異なる文化や考え方を理解し、 相互の人権を尊重し合う社会

～外国人の生活習慣等を理解・尊重し、
多様性を認め合う偏見や差別のない社会へ～



グローバル化が進み、海外との結びつきがより緊密になる中で、府民一人ひとりが国際理解を深め、世界の人々と交流し、協力し合っていくことは、自らの人生をより豊かにすることです。また、外国籍府民が地域の一員として地域づくりに参画し、多様な感性や能力を発揮することは、京都の活性化や国際化の大きな力となります。

このため、府民一人ひとりが異なる文化や考え方を理解し、相互の人権を尊重し合う「心の国際化」を推進し、外国籍府民の人権についての正しい理解と認識を広げていくことにより、多文化共生社会の実現をめざしましょう。



21世紀を人権の世紀に

企画・制作
京都人権啓発推進会議
京都府

〔府民生活部人権啓発推進室〕
知事直轄組織国際課